

楠原童子谷城(別名無)(指定無)(津市芸濃町楠原字童子谷)

築城年：応仁年間(1467~1469)

築城者：山田重勝

形式：平山城

遺構：土塁

規模：東西130m×南北155m

標高：73m 比高：17m

城主：山田重勝 ー 重益

歴史：

南北朝の頃、北朝側の足利將軍の命を受けた山田重勝が楠原の地に入り支配した。南朝側の北畠氏に対する構えとして城を築き居住した。その後、子孫は織田氏に従い、重益になって近江の安土で死んだという。

(勢陽五鈴遺響)

書籍：勢陽五鈴遺響 三重の中世城館

感想：守り堅固な城には見えない。居館風である。近辺で大きな戦は無かったのだろうか。同じように向市場城にも言える。

「山城遺産」による

【感想】 芸濃町楠原宿西部の中ノ川対岸の台地に築かれており、通路側に切岸が見られる程度で、小屋付近の主郭周辺に堀は見られなかった。南東約600mに楠原向市場城がある。

【案内】 県道10号線旧道の楠原宿入口に案内板があり、城名が記載されている。

旧道を西に行き、堤防道路に橋があり[マップコード`213 319 108*70]、橋より歩いて行くと右側に城跡がある。作業小屋の西側付近が案内板に表示されている。

北側に覚順和上の五輪塔が祀られている。青い城跡標識の文字は消えていた。

【歴史】 応仁年間(1467~69年)に山田重勝により築城されたという。楠原向市場城は山田氏の分家により築かれた。

「古城盛衰記」による

